

●●●●● 【結婚・子育ての切れ目ない支援】 若者が希望をもって結婚、子育てできる村をめざす ●●●●●

基本的方向

近年、若者の価値観は多様化してきており、「若者実態調査」からは、自然豊かな農村で子育てをしたい、故郷阿智村に帰って子育てをしたいと思っている若者も多く見られました。

結婚支援事業を進め、若者が結婚に希望を持てるような施策を進めます。若者が阿智村の暮らしや子育てに魅力を感じるためには、経済的基盤はもちろんのこと、豊かな子育てができる環境整備が必要です。子育てしながら安心して働くためには、保育園や学童保育の充実が不可欠であり、未満児保育施設の増設や、そのための保育士、学童保育支援員の確保も課題です。また、各保育園が地域の子育て拠点となるためにも、住民や保護者が保育園の運営に参画できるような仕組みづくりなども必要です。メディアが与える健康への影響は、年々深刻さを増していることから、幼少期から多くの自然体験ができるような取り組みを進めます。その思い出があることで、いつか阿智村に戻ってきたいと思えると考えます。村には、多くの地域活動がありますが、子育てと地域活動の両立に負担を感じるケースもあります。子育てをしながら地域の活動も続けられる方策も考えなければなりません。

以上のような実態を踏まえ、若者が「阿智村で結婚したい」「阿智村で子育てしたい」「阿智村でもう一人産みたい」と思える村づくりを進めます。

結婚支援

もう1人産みたくなる子育て環境

- 多様なニーズに応える結婚支援
- 子育てを応援します
- 保育園の充実
- 学童保育の充実
- 学習機会と情報の提供

地域に根ざした質の高い教育

- 地域に根ざした学校教育
- 阿智高校の存続と発展

●●●●● 【まちづくり】 各地域の特性を生かし、安心安全なふるさとづくりをめざす ●●●●●

基本的方向

阿智村で暮らし続けるためには、誰もが安心して生活できる環境づくりが重要です。また、地域における人と人とのつながりづくりは、幸せに暮らすために欠かすことができません。

集落の維持と暮らし分野では、誰もが暮らしやすい生活環境の整備と災害に強い村づくりを目指します。高齢者・障がい者に関わらず誰もが安心して相談できるような窓口の整備と、住まい、医療、介護、生活支援・介護予防が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組みます。

環境・エネルギー分野では、住民の環境保全への意識を高め、自然環境の保全や省資源・省エネルギーの推進とエネルギー自給力の向上に努めます。喫緊の課題である森林整備と資源の利活用を図るため、雇用の場としても見直しを行います。

自治と協働の村づくり分野では、住民のさまざまな学習や活動を支援し、お互いが協力して地域振興に取り組んでいける仕組みづくりを進めます。

集落の維持と暮らし

- 公共交通
- 災害に強い地域づくり
- くらしの基盤
- 健康づくりの推進
- 福祉の充実

環境・エネルギー

- 環境保全
- 森林整備と活用
- エネルギー自給

自治と協働の村づくり

- 全村博物館
- 地域づくりの推進
- 社会教育

星ふるさと 阿智村

まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口ビジョン 総合戦略

ダイジェスト版

平成27年～31年 長野県阿智村



●●●●● 阿智村のめざす姿 ●●●●●

阿智村の人口はこのまいくと30年後の2045年には66%まで減少することが見込まれています。地区の人口減少は、住みやすさに少なからぬ影響をもたらします。村内各地域の保育園、学校、各種機能を維持すること、農業、景観保全、地域のお役など、人口はあらゆる場面で生活のあり方、地域のあり方を決める大きな要素です。そこで本計画では30年後に現在の人口の80%を維持することを目標としました。

2012年から始まった「スタービレッジ阿智」の取り組みによって、阿智村を訪れる観光客は増えています。この交流人口の拡大を阿智村の定住人口の増加に結びつけるためにも、住み続けたい、住み続けられる村であることと、定住者を迎え入れる体制があることが必要です。これまでも阿智村では、行政のみならず、住民のみならずによる定住者受入れのための取り組みが行われてきました。「暮らす、生きる。阿智家族」をスローガンにさらなる定住促進に取り組みます。本戦略の策定をあらためて村民一人ひとりが村の将来を考え、その良さを理解する機会とし、住み続けたい、住み続けられる村づくりをすすめていきます。すべてのひとの心のふるさととして人も星も輝く村をめざします。

●●●●● 基本的な視点 ●●●●●

視点1 誰もが暮らしやすい地域

住んでいる私達がこの村に住んで良かったと思える村にすることが何より重要です。結果的にそうした地域に移住者が集まってくると考えます。

視点2 若者が暮らしやすい地域ー持続可能な阿智村

本計画の策定にあたり若者状態調査を実施し、若者が暮らしやすい村の条件として見えてきたのは以下の5点です。①多くの人に開かれた交流の場のある村 ②地域社会と若者がつながっている村 ③子育てしやすい村 ④若者にとって、住環境の整備されている村 ⑤若者がやりたい仕事を自分たちでつくっていきける村

若い人は地域と関わりたい、貢献したいの思いを持っています。しかしながらきっかけがないことや、地域との接点が限られているために十分にできずにいます。また場合によっては地域の活動が負担となり暮らしにくさを感じることがあります。多様なつながり方があり、若者が認められる居場所が地域にあることが必要であると考えます。若い人が主体となってやりたいことに取り組める村であることが必要です。

視点3 集落の維持

集落は生活の基盤となる単位です。集落単位、自治会単位で地域の実状に則した取り組みをすすめ、集落を維持することが必要です。

視点4 地域内経済循環の仕組み構築

スタービレッジの取り組みにより、阿智村を訪れる観光客が増えています。観光客がこの地に滞在し、村内各所を訪れる仕組みをつくり、農林業、商工業などへ効果を波及させることが必要です。地域資源を活かした産業をほりおこし、地域課題の解決を地域の仕事としていくことで、地域内経済循環をつくりだします。

視点5 自治と協働の村づくり

地域をつくるのはここに暮らす住民の皆さんの自治と協働の力にほかなりません。その力が十分に発揮できるような村は必要な取り組みをすすめます。

人口ビジョン

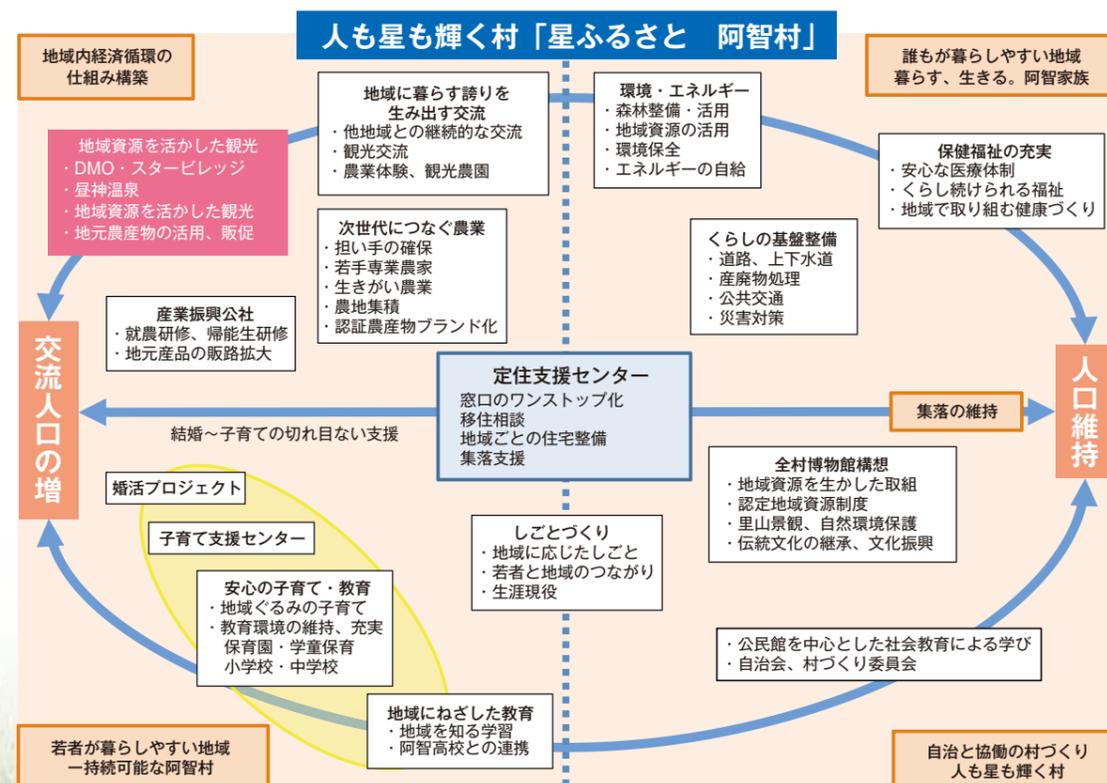
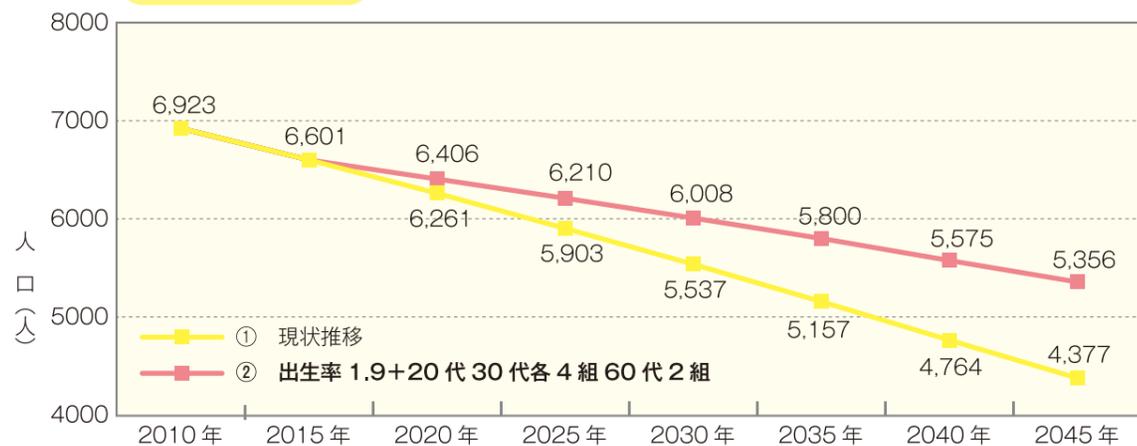
●●●●● 阿智村の人口目標 ●●●●●

2045年人口 5356人 (2015年人口の約80%)

- (1) 合計特殊出生率目標: 1.9 (年間出生数目標:55人(2025年以降50人))
- (2) 年間移住目標:68人 [44人(この5年間の平均移住者数*1)+24人(増加分)]
 - ① 大卒時のUターン・20代ターン(20代男女) 4組/年間=8人
 - ② 30代夫婦Uターン(30代夫婦と子ども1人) 4組/年間=12人
 - ③ 60代2人世帯(定年帰農など) 2組/年間=4人

*1 定住支援センターを介しての移住

将来人口推計



まち・ひと・しごと創生総合戦略

●●●●● 【しごと】 既存産業の育成と新しい小さな仕事づくり 支援により、職場を創出する ●●●●●

基本的方向

村外で暮らす阿智村出身者の中には「阿智村に戻りたいが、仕事がないから戻れない」と考えている人が少なくありません。一方、近年の傾向として、農山村のコミュニティの中で地域に関わる仕事がしたい、地域社会の役に立ちたいと考えている若者が増えています。そうした中では、既存産業の発展とともに農山村の特長を活かした新たなしごとをつくり出すことが重要です。

基幹産業である観光分野では、「スタービレッジ阿智」の取り組みをさらに推進するとともに、拡大する交流人口を村内各所・各分野へ波及させるよう各業種との連携を図ります。また昼神温泉や花桃など、阿智村の地域資源を活かした取り組みを支援します。基盤産業でありながら、耕作放棄地の増加などが問題となっている農業分野では、多様な農業スタイルを提案し農業者の確保を図ります。商工分野では、既存の企業の経営を支援するとともに、空き家や空き店舗を活用した新たな取り組みを研究します。

さらに近年は、複数の小さなしごとを組み合わせる暮らし方が広がっています。地域を豊かにする新しい小さなしごとを様々な分野でつくり出す支援をし、阿智村の中に多様なライフスタイルモデルをつくり出すことで、定住としごとの可能性を広げます。

地域資源を活かした観光

- 日本版DMOへの登録 ●「日本一の星空」スタービレッジ事業
- 昼神温泉の魅力向上 ●村内各地域の資源を活かした観光連携
- 魅力ある農山村の景観保全

次世代につなぐ農業

- 農業の担い手育成
- 認証農産物のブランド化と有利販売ルートの充実

地域のしごと

- 地域内経済循環の構築 ●将来につながる産業の育成
- 新たな産業と小さな仕事づくり



●●●●● 【ひとのなごれ】 定住人口の維持や減少の緩和のため 居住環境を充実させます。 ●●●●●

基本的方向

定住してもらうには「住まい」の確保が基本であり、村営住宅、宅地、空き家の確保など居住環境を整備することが重要です。

「住まい」のニーズは農業を目的とする方、静かな田舎暮らしを望む方、昼神温泉の近くを望む方、子育てのための住宅、新築するために宅地を探されている方によって希望する地域は異なります。各地区の地域に応じた定住施策の実施とともに、新たな分譲地だけではなく優良な宅地を確保するために、空き家に対する新たな補助制度の検討が必要です。

定住支援センターは地域と民間事業者と協力して不動産や仕事に関することも充実させ定住支援を行います。従来の阿智村にない新しい価値観を持つ人々を受け入れることにより阿智村の魅力をもっと発展させます。

定住促進

- 定住支援センターの充実 ●若者定住のための環境整備
- 空き家の活用 ●村営住宅の整備と運営
- ふるさと交流事業 ●地域おこし協力隊

